先物協会ニュース
JCFIAマンスリー

JCFIA
JAPAN COMMODITY FUTURES INDUSTRY ASSOCIATION
発行所 日本商品先物振興協会
〒103-0016
東京都中央区日本橋小網町9-9
☎(03)3664-5731 FAX(03)3664-5733
http://www.jcfia.gr.jp/

敬
私の好きな一文字

（川路 耕一 光陽グループ代表）

FUTURES PLAZA

三菱商事フューチャーズ 総合企画部長 村上 公成

襷（たすき）を掛け直して臨む

失われた10年といわれるバブル崩壊は、1990年に始まった。日本のバブル景気と世界の冷戦構造が崩壊して以来、日本は、経済も社会も国民の志気や国際的地位も基礎教育の水準も治安の良好さも、社会秩序の安定性も全て悪化若しくは低下した。12年の間に犯罪検挙率20%、ホームレス2万2、000人、完全失業率5・2%、年間自殺者3万人の国になってしまったのである。戦後短期間に、最適工業化社会を築き上げた国と同じ国かと思うほどの凋落ぶりである。

この12年の間に登場した総理大臣は11人であるが、その全員が改革を旗印に登場し、処々の政策を打ち出した。

しかし、日本は右肩下がりを余儀なくされ、状況は悪化した。

国際的に通用するグローバルスタンダードの旗印の下に商品取引所法が改正（1998年4月）されてから、5年が経過した。その間、出来高は最高を記録し続けている。エネルギー関係を筆頭に上場商品も増えている。IT化の流れを受けてインターネット取引も急速に普及した。兼業業務も興隆し、外国為替証拠金取引を筆頭に多角化が進んでいる。日本の凋落の中にあって、わが業界は見た目には順調に推移している。

しかし、本質的命題である日本の先物市場を変えられたか。社会経済的に先物市場の存在意義を高めることができたのか？　商取法第一条の目的条項にある、『国民経済の適切な運営と商品市場における取引の委託者の保護』に進展はあったのか。まだまだ目的達成途上であろう。今後も社会情勢変化に対応したニーズの取り込み等に官民共に取り組まなければならないが、処々の施策を打ち出しながら、実効が上がらず、状況が悪化することは避けたい。

リスクの顕在化の流れは変えられない。経済のグローバル化が進展することを前提に考えればリスクヘッジの必要性はますます高くなる。また、日本が貧しい国になった訳ではない。国民金融資産は1、400兆円といわれる。先物取引の可能性は計り知れないはずだ。襷を掛け直して来るべき新時代に臨みたいものだ。

プロフィール

1956年　茨城県水戸市生まれ
1980年　早稲田大学商学部卒業
1992年　三菱商事フューチャーズ株式会社 入社
1999年　現職

農林水産省 委託研究報告書
先物協会取りまとめ

IT取引の推進策を検討
外部ベンダーの参画など提言
新たな展望を開くヒント

先物協会は農林水産省から受託していた「商品先物市場振興対策」に係る調査研究の報告書をまとめ、このほど同省に提出した。ここでは課題を5つに分け、アクセスコスト削減など4つの提言をしている。

この調査研究はIT（情報技術）の普及に対応して、わが国の商品先物取引におけるIT取引の推進方策を探るため、海外商品先物市場のIT取引の進展状況や、内外のIT取引に伴う発展要因や影響を分析、検討してまとめた。

報告ではまず、IT化の進展で取引所とは何かが改めて問いかけられているとし、この問いかけを反芻する中で、新たな展望を開くヒントがある――としている。

具体的には以下の5つのテーマについて調査研究し、分析・検討した。①欧米先物取引所の現状と取引電子化、②東穀取、東工取など取引所からみたIT化の現状と今後の方向、③仲介業者からみたIT化の現状と今後の方向、④日本の受託会員のIT化の現状と課題、⑤IT化の先物市場へのインパクトに関する経済学的観点からの整理。

その結果、近い将来、日本の商品市場で実現が望ましい具体的課題として以下の4つのことを提言している。

農林水産省

世界からの参加を促進

(1)取引所の行うべきこと　取引電子化を果たした取引所は、API（アプリケーション・プログラム・インターフェイス、Application Program Interface）を公表し、情報ベンダー、およびISV（Independent Software Vendors）など独立のサービス・ベンダーの参画を促すことを図る。

この提言は、IT化によって広く世界から日本の商品市場への参加という日本の商品先物業界の長年の課題をほとんど費用をかけずに促進出来ると考えている。

また、今後、スプレッド取引、裁定取引、オプション取引などの進展に伴い、注文執行戦略、クリアリング業務等が複雑化、高度化し、それに対応するシステム整備も、技術およびコストの両面で負担が一層増加する。このため、取引所、仲介業者が各個で対応するよりも、独立系のベンダーを利用し、あるいはアウトソーシングできる便宜の提供が効率的で、技術面でも有利とみている。

また、ISVを利用したオープン・システムへの移行でエラー等のトラブルが発生した場合の責任問題については、ユーレックスが採用している責任区分（取引所の専用端末の設置を義務付け、その範囲では取引所の責任とするが、FCMやISVのシステムからのアクセス分はそれぞれが責任を持つ）が日本市場でも参考になるとしている。

事前に訓練、監視体制を整備

(2)チュートリアルの利用促進　オンライン取引において市場利用者向けのチュートリアル（Tutorial、利用者がオンライン取引をする前に義務付けられる訓練（簡単な試験）プログラム）を採用し、さらに先物取引に関するリスク開示文書等のオンラインでの開示の充実を図る。

これは、オンライン取引に係るリスク開示の充実と、それに関連する業務量の簡素化という相反する課題をチュートリアルの利用によって解決できる。取引参加者に取引に伴うリスクを「知らせる」だけでなく、「納得してから」取引に参加してもらうための有効な手段になる。

(3)オンライン取引の監視　オンライン取引のマーケット・サーベイランス（市場監視）体制の整備と充実を図る。

オンライン取引の進展によって、従来、日本の商品市場に参加していなかった海外、および国内他業種からの参加増大が予想され、市場の監視についてもITを利用した高度化が必要になる。欧米の取引所および監督官庁（CFTC、SECなど）はすでに様々に工夫をこらした市場監視システムを開発、利用しており、これらとの情報交換によって日本もIT時代にふさわしいものに整備する必要がある。

人材の育成が重要

(4)人材　商品取引員など仲介業者においては、ITと営業実務をともに理解できる人材育成体制の充実、システムの一層のセキュリティ対策とコストパフォーマンスの向上を図る。

ITと取引実務の両方を理解できる人材の育成・確保は欧米でも最重要課題とされており、日本市場でもシステム部門の重要性の理解と充実が必要――と強調している。

平成14年　農林水産省委託事業
商品先物市場振興対策に係る調査

委員名簿　◎印は委員長

◎	宇佐美　洋	青山学院大学院国際マネジメント科　客員教授
	大戸　邦浩	日本ユニシス株式会社　金融第五統括部
	小野里光博	東京工業品取引所　理事待遇企画部長
	小林　雅人	東京穀物商品取引所　システム管理室次長
	田村　篤嗣	日本NCR株式会社金融システム本部CISソリューションズ　事業企画部部長
	益永　研	有限会社エム・ケイ・ニュース社　代表取締役社長
	水野慎次郎	カネツ商事株式会社　取締役総合商品部長
	山田　譲二	日本ユニコム株式会社　情報システム部理事部長

商品先物啓発セミナーを開催
6月から全国4都市で

先物協会は平成15年度の新事業として、「商品先物なっとくセミナー」を6月から12月にかけて、東京、大阪、名古屋、福岡、再び東京の順で開催する。

証券市場にはない商品先物市場の「面白さ」を投資家に理解してもらうのが狙い。各都市ごとに新聞広告、ポスター、チラシ、プレスリリース、WEBの開設により告知、集客を図る。1会場、250人程度の参加を見込んでいる。

第1回のセミナーは6月7日（土）、東京商工会議所7階の国際会議場で。

第1部の講師は、内外の証券会社、生保、信託銀行などでファンドマネージャーとして活躍、現在はUFJ総合研究所主任研究員、企業年金研究所取締役の山崎元氏。商品先物の楽しさを商品先物の世界以外の投資分野の専門家として話をすることで、新しい商品先物のイメージ作り、取引妙味を伝える。

第2部は、税理士による「新投資税制の仕組み」を予定している。

先物春秋

「人間、新聞の相場欄を理解できないようでは、本当の世の中は分からない。社会万般の姿が、この欄に反映してくるのだ。我々が生きてゆくに必要なものはなにか。米ではないか。糸ではないか」――こう言って相場欄を読みあさり、相場道に突入していったのは、講談社の創始者野間清治である▼初めての米相場で百円儲けた時などは、鬼の首でも取ったようで、「車を飛ばして意気揚々、電車の人、道を歩む人を哀れむが如くに眺め下ろし、土産物を色々買い込んで、我が家に帰った」（自伝『私の半生』）。その当時、蛎殻町は松辰こと松村辰次郎の天下であった。松辰は月島にある別荘が火事で焼けているのを眺めながら、売った、買ったをやっていたという▼その豪胆ぶりが新聞に報じられると、野間は「おれは松辰の何倍何十倍のものになってやるゾ」と力みかえる。そのころ世間では「千円の身上は朝寝でつぶれる、一万円の身上は芸者買いでつぶれる、十万円の身上は『株』でつぶれる、百万円の身上は不和でつぶれる」といわれたものだが、野間は鎧橋そばの仲買山栗の2階に陣取って三軍を叱咤する大将軍気取りであった▼「富を作るには、天下最上唯一の場所はここだ」と豪語する日々。家族ははらはらするばかり。やがてきびしいしっぺ返しで破綻するが、後に「処世の達人」と呼ばれるようになる。それには若き日の相場との格闘がこやしとなったのは間違いない。相場は人生の縮図である。（泉）